

奉

軍務局

軍令部
別

印

大正七年八月二十一日

於陸軍運輸部本部

海軍々令部出仕 藤吉

駿

海軍大臣加藤友三郎殿

西船 第七號 沿海州派遣第一次輸送部隊船繰計畫表 一葉
西船 第九號 沿海州派遣第二次輸送部隊船繰計畫表 一葉

右進達

別紙二葉添付

(終)

陸軍

0584

西船第七號 沿海州派遣第一次輸送部隊船線計畫表 大正七年八月二十日調製 陸軍運輸部本部

| 船名 | 大正 2922 | | 和歌浦 2401 | 富士山 1942 |
|-----|---------------|---------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| 部隊號 | 第一師團架橋縱列縱列長以下 | 第一師團架橋縱列第一小隊 | 第一師團架橋縱列第二小隊 | 第一師團架橋縱列第三小隊 |
| 人員 | 將校 | 5 | 1 | 1 |
| | 下士卒 | 17 | 174 | 175 |
| 計 | 197 | | 175 | 176 |
| 馬匹 | 馬 | 8 | 127 | 128 |
| | 計 | 135 | 127 | 128 |
| 材料 | | 輜重車 109 鉄舟64 (LD/第一小隊及第二小隊分) | 輜重車 109 鉄舟64 (GD/第一小隊及第二小隊分) | 輜重車 109 鉄舟64 (LD/第三小隊及GD/第三小隊分) |
| 乘船地 | 宇 | | 品 | |
| 乘船日 | 八月二十四日 | | 八月二十六日 | |
| 上陸地 | 浦 | | 潮 | |
| 上陸日 | 八月二十八日 | | 八月三十日 | |

備考
 一、八月二十日進達シタル西船第七號ハ本表ノ如ク改正セラル
 二、本改正ハ八月二十日夜ニ至リ突然沿海州派遣第二次輸送部隊輸送開始ノ命下リ西船第九號ノ如ク船線計畫ヲナス必要アリシニヨル

0585

西船第九號 沿海州派遣第二次輸送部隊船隻運送表 陸軍運輸部本部 昭和十八年八月二十日調製

| 船名 | 本港 | | | 營口 | | | 遼世 | 鶴 | 相模 | |
|-----|------------|------------|--------------|--------------|----------|------|--------------|-------------------------|--------------|-----|
| | 步兵第十三旅團司令部 | 步兵第四十七聯隊本部 | 步兵第四十七聯隊第一大隊 | 步兵第四十七聯隊第二中隊 | 野戰豫備病院一班 | 狩種砲兵 | 步兵第四十七聯隊第二大隊 | 步兵第四十七聯隊第三大隊 (含第二中隊) | 第二師團衛生隊擔架一中隊 | |
| 人員 | 將校 | 3 | 5 | 29 | 5 | 21 | 5 | 29 | 24 | 4 |
| | 下士卒 | 13 | 28 | 1170 | 253 | 184 | 83 | 1170 | 917 | 184 |
| | 計 | 1248 | | | 551 | | | 1199 | 941 | 188 |
| 馬匹 | 馬 | 8 | 19 | 78 | | 1 | 7 | 78 | 78 | 1 |
| | 計 | 105 | | | 8 | | | 78 | 78 | 1 |
| 材料 | | | | | | | | | | |
| 乘船地 | 門司 | | | | | | | | | |
| 乘船日 | 八月廿三日 | | | | | | 八月廿五日 | | | |
| 上陸地 | 浦潮 | | | | | | | | | |
| 上陸日 | 八月廿六日 | | | | | | 八月廿八日 | | | |

0586

機密

參一發第八號

大正七年八月二十四日

參謀總長

7.8.25
官房受領

通報

一興凱湖東側地尾ニ於ケル「カルムイコフ」支隊及「チエックスロワツク

軍ハ八月二十日夜遂ニ其陣地ヲ撤シ「ワシリエフカ」(スイヤギナ

東南方約六吉米)「ボフスコエ」(スイヤギナ)東方約六吉米)ノ線

ニアル聯合軍陣地内ニ後退ス

此日「カルムイコフ」支隊退却ニ際シ「スイヤギナ」東方ニ在リシ

我第十二師團ノ部隊ハ之ヲ收容ス

ニ「ワシリエフカ」ツホフスコエ陣地ノ第一線右翼ハ我第十二師

團ノ歩兵三中隊、左翼ハ佛「ピヨ」中佐ノ指揮スル佛兵

一大隊「チエック」一大隊半、騎兵一小隊及山砲二門ヲ以テ守

備セテ、第十二師團ノ歩兵一中隊、英軍一中隊「カルムイ

務局長

0587

コウ部隊チエツク一大隊半ヲ豫備トシ我歩兵第二十四聯
隊長稻垣大佐全部ノ指揮ヲ取ル

三敵ノ第一線兵力ハ約五大隊ヲ算シ八月二十一日歩兵
約一大隊砲四門ノ敵ハ我陣地ノ左翼ニ近迫シ來リシ
ヲ以テ第十二師團長ハ更ニ歩兵一大隊砲兵ニ中隊ヲ
該方面ニ増派ス

四北滿方面ニ在リテハ藤井支隊ニ屬スル歩兵一大隊騎
兵一聯隊ハ八月二十二日滿洲里ニ到着シ八月二十三
日ニハ藤井支隊殆ント全部ノ集結ヲ終ル

極秘

供

軍務局

軍令部

二〇九一

大正七年八月二十六日午後六時十分
品局發

受信者大臣 藤吉少佐

電報譯

七番電報
第三師團ノ輸送九月六日ヨリ字品發
釜山ニ向ケ開始セラルル豫定

了

海軍

0589

二〇八九

供

軍務局

軍令部
別

大正 七 年 八 月 二 十 六 日 午 前 九 時 五 十 五 分 舞 鶴 無 線 局 發
大 正 七 年 八 月 二 十 六 日 午 後 一 時 五 分 海 軍 局 着

(印)

受信者次官

(暗號)電報譯

一番電報

二十五日第一次輸送揚陸了ル

了

海 軍

0590

勅第三第



勅員令



供

第三師團野戰電信中隊二箇、第三師團兵站輸送縱列
二箇、同輜重監視隊四箇、野戰豫備病院班一箇、患者

輸送部班一箇、騎兵第三聯隊及以上諸部隊、關係留

軍務局

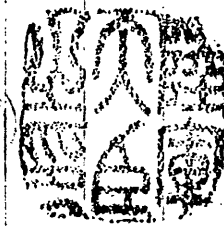
部隊、動員ヲ令セラルル動員第一日八月二十五日ナリ

七年八月二十四日正午十二時

第一課

海軍大臣加藤友三郎殿

陸軍大臣大島健一



軍務局

陸軍

格

0591

編第八號

近衛師團ニ於テ無線電信隊、臨時電信隊各一箇、第四師團

ニ於テ新炭採集部一箇、第五師團ニ於テ野戰重砲兵第

四聯隊及同輜重隊、野戰重砲兵第四聯隊補充隊、第十師

團ニ於テ臨時患者收容班一箇ノ編成ヲ令セラル編成第

軍務局 八月二十五日ナリ

大正七年八月二十四日正午十二時

課小牧

陸軍大臣大島健一

海軍大臣加藤友三郎殿



大臣官房炭

松田

陸

軍

報

發第九號

通

報

大正七年八月二十五日
參謀總長

7.8.27
官爲受領

軍務局長

電

興凱湖東側地區ニ於ケル我陣地前面ノ敵ハ步兵約八
千ナルカ如ク認識シ得タル砲兵ハ野砲十四門重輕砲
若干ニシテ二十一日以來我レニ對セシカニ二十二日ニ
ハ其一飛行機ノ飛行ヲ見次テ二十三日我陣地左右兩
方面ニ向ヒ攻撃シ來レリ其右翼方面ニ向ヒシモノハ
歩兵約一千野砲及機關銃ニシテ兩度ニ亘リ攻撃セシ
モ日本軍守備兵ハ午後四時ニ至リ全ク之ヲ擊退セリ
及之左翼方面ニ向ヒシ敵ハ歩兵約二千機關銃六ニシ
テ午前八時頃ヨリ攻撃ヲ開始シ該方面守備兵全トシ
テ佛兵及チエックハ終ニ退却ノ止ムナキニ至リ我第十

宗

0593

二師團ノ部隊之モ收容ニ任シ敵ノ前進ヲ拒止シタ
ルモ尚敵ハ近ク我陣地前ニ停止セリ
二第十二師團長ハ情況ノ變化ニ應スル爲其主力ノ集合
地ヲ「スイヤギナ」ニ進メ二十三日夕迄ニ歩兵約五大隊野砲
兵一大隊騎兵工兵各一中隊等ノ集結ヲ終リアリシカ
同日ノ情況ニ鑑ミ二十四日拂曉ヲ以テ斷然攻勢ニ轉
スルニ決セリ
三二十四日午時四時第十二師團主力及「子エック」ニ大隊ヲ第一
線トシ外國軍ヲ豫備トシ攻撃前進ヲ開始シ午前五時
三十分ニハツホスコエ「東方ニ吉米小流ノ線ヲ通過シ
テ攻撃ヲ續行シ終ニ敵ヲ「シマコワカ」方向ニ擊退シ午後二
時續テ同地北方高地ニ向ヒ追撃中ニ在リ
四二十四日ニ於ケル戦闘ニ於テ知り得タル日本軍ノ戰

砲 二 死
 一 於 五、
 裝 ケル 重傷 三、
 甲 ル 戦 軽傷 二
 機 闘 ノ 傷 十、
 關 車 二、
 二、 ナリ 傷 未
 ナリ 夕
 詳 ナ
 ナ ス 鹵 獲 品 機 關 銃 二、
 鹵 獲 品 機 關 銃 一、
 野 四 日

0595



供覽

軍務局

大正七年八月二十六日 午前九時五十分 郵務局發



發信者 南塩運輸部 孫堂大尉

牙一處

電報譯

二十五日第一次 輸送 揚陸終

林川

(3)



海軍

0596

海軍省

箋

軍務

別

大正七年

八月二十七日

日

午後

〇時

〇分

無線局

發

日

午後

一時

四十五分

海軍省

著

發信者

北藤 壹大尉

受信者 軍令部長

受信者 電報譯

二番 二十五日 午前 第二次揚陸ヲ開始ス

林

3

海

軍

2101

0597

陸

編第九號

第一師團ニ於テ第一自動車隊ノ編成ヲ令セラル編成第一
日八月二十八日ナリ

大正七年八月二十七日午後三時

陸軍大臣大島健一

海軍大臣加藤友三郎 殿



陸軍省



裁



陸軍

7. 3. 23 受領

0599

~~秘~~

參一發第六號

參謀總長

大正七年八月二十日

參謀總長

通報



軍務局長

知
マノ
空

セメヨ一ノ支隊ハ十九日ツアカシ(滿洲里東方約
 四里)附近ヨリ行動ヲ開始シ二十日滿洲里附近ヲ占
 領シテ我第七師團長ノ率ユル支隊ノ滿洲里進出
 ヲ掩護スル筈ニシテ騎兵第七聯隊ハ二十一日札來
 諸爾(滿洲里東方約七里半)ニ下車シ二十二日滿洲里
 ニ向ヒ前進シ爾餘ノ部隊ハ二十二日ヨリ滿洲里ニ下車
 シ得ル豫定ナリ現在近ク滿洲里西方ヲマツエフスカ
 及其附近ニ在ル獨塊倭虜軍及過激派軍ノ兵力
 ハ歩兵七八大隊騎兵約五中隊ナリ

7.8.21
官房受領

0600

極秘

參一發第七號


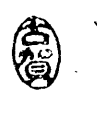
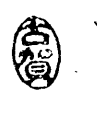
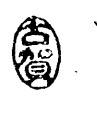
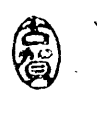
大正七年八月二十二日

參謀總長



通報



一、カラムイコフ支隊及チエツクスロワツク軍ハ八月十六日以後概シテ「グエラトヤ」河ノ線ヲ固守シ二十日夜迄ニ情況變化ナシ該陣地ニハ英佛軍ノ一部已ニ到着シタリ
ニ、獨逸俘虜軍及過激派軍ニ屬スル河用艦船ハ十六日ヨリ興凱湖ニ游弋シアリシカ同日夜約四百五十名ヲ該湖西南岸「カ」「イ」バロフニ上陸セシム
此上陸兵ハ爾後少數ノ部隊ニ分レ隨所掠奪ヲ行ヒ其一群ハ十八日「グ」「ロ」「デ」「コ」「ウ」東清東部線露支國境ヨリ東ヘ「ツ」目ノ停車場ノ東北方附近ニ現出セシモ所在ノ

事務局

7. 8. 23

事務局

7. 8. 26

0601

露國騎兵之ヲ驅逐ス
遇、北滿洲方面ニ輸送中ナリシ「チタクスロワツク」軍ハ
其一部ヲ下車セシメ國境附近ノ墜道及橋梁ヲ守
備セシメタリ

11710

0602

兵

機

參一發第十號

水

烏蘇利方面及滿洲里方面ノ情況

參謀總長

大正七年八月二十日

7.8.31
官房參備

軍務局

一我第十二師團ハ八月二十日拂曉迄ニ概シテ「ツホスエ」
 東方無名河ノ線ニ攻撃準備ノ位置ヲ占メ引續キ攻撃
 =移レリ又此際敵ノ右側背迂回ニ任シタル我歩兵一
 中隊及エ兵半小隊ハ其目的ヲ達シ敵後方ニ於テ軌道
 ノ小破壊ヲ行ヒ爲ニ敵ハ退却ニ際シ裝甲列車ニテ遺
 棄スルノ已ムナキニ至レリ
 師團ハ敗敵ヲ急追シテ正午「クラニフスキ」附近ニ達セシ
 モ「ベーラヤ」河ノ鐵橋敵ノ破壊スル所トナリ同夜該地
 附近ニ宿營スルノ余儀ナキニ至レリ
 二敗退セシ敵ハ「シマコフカ」附近ニ停止シ二十五日我第十

0603

二師團ハ其主カヲ以テ「ベトラヤ」河左岸ノ線ニ沿ヒテ其ノ夫隊
 (「シマコフカ」南方約七吉米)附近ニ步兵一大隊、「コマロフカ」附近
 ニ同ニ大隊、鐵道線路附近ニ同一大隊ヲ配置シ爾餘ノ
 兵カヲ「クラエフスキ」附近ニ集結シ外國軍ヲ「クラエフスキ」
 及「スイヤギナ」附近ニ位置セシノ爾後ノ前進ヲ準備セリ
 又此日我第十二師團ノ歩兵一中隊ハ退却スル敵ニ尾
 シテ「シマコフカ」驛ヲ占領セリ
 三師團ハ二十六日「ウエーラヤ」河左岸地區ヲ出發シ「シマコフカ」
 北方高地ニ向ヒ敵ヲ追撃シ同日其右縱隊ハ「メドウエー
 シヤ」ニ其左縱隊ハ「シマコフカ」北方高地ニ又本隊ハ「シマコ
 フカ」ニ連シ師團長亦「シマコフカ」ニ在リ
 四、「クラエフスキ」附近ノ戰鬥ニ參加セシ敵ノ兵カハ約八千
 ニシテ鐵道輸送及徒步行軍ニ依リ二十四日朝ヨリ夜

ニ亘リ烏蘇利驛方向ニ退却セリ

敵ハ退却ニ際シ「シマコフカ」北方約百米ニアル鐵道橋ヲ根

本的ニ破壊シ又同停車場ノ給水設備ヲモ破壊セリ

五「クラエフスキー」附近ノ戦闘ニ於テ我步兵第十四聯隊中隊

長許斐環戦死ニ此外死傷將校以下百七十名ニ

テ敵ノ損害ハ我ニ數倍ニ戰場ニ遺棄セシ死屍ノミニ

テモ約三百ニ達ス

鹵獲品裝甲列車ニ火炮三機関銃四電話線十吉小銃驛

藥等ナリ

六興凱湖方面ニ於テハ八月十六日砲ヲ有スル約四百五

十名ノ敵ハ同湖南岸ニ上陸シ主トシテ東清鐵道方面

ニ行動セシカ入月十八日ヨリ同二十日ニ亘リ露國騎

兵數中隊之ニ對シ又會西方ニ鐵道輸送中ナリシ「ケエツク

スロワック軍ハ步兵ニ中隊ヲ下車セシメ「コロテコウ」「ホクラニタ
ナヤ」間隧道及橋梁ノ掩護ニ任セリ爾後敵ハ漸次退却
シ「カーメンイバロフ」ノ周圍ニ堅固ニ陣地ヲ占領セシモ二十
四日夜歩兵一大隊半騎兵三中队砲四門ヨリ成ル露軍
一支隊ノ攻撃ヲ受ケ遂ニ陣地ヲ撤シ乘船シテ湖上ヲ
東北方ニ退却シ露軍ハ二十五日朝「カーメンルイバロフ」ヲ占
領セリ

七 第十二師團第一梯團及第一軍樂隊ハ八月二十五日ヲ
以テ悉ク浦潮ニ上陸ヲ終リ第二梯團部隊及近衛第一
兩師團架橋縱列モ亦八月二十六日ヨリ逐次上陸中ニ
在リ

八 北滿方面ニ於テハ藤井文隊ノ輸送ハ無事進捗シ八月
二十六日ヲ以テ支隊ヲ集結ヲ終リ其步兵一大隊ヲ滿

0606

洲里西方約二里第八十六待避驛附近ニ出シ警戒ニ在
 セシメタリ
 「セメヨノ」支隊ハ八月二十四日其歩兵ノ一部ヲ以テ如
 ウリヤ」ヲ占領シニ十五日其主力ヲ以テ同地附近ニ集
 中中ニシテ別ニ其騎兵ニ中隊砲ニ門ハ「ハ」ルヲ占領
 セリ「ソクトイ」附近ニハ約一千ノ敵アルカ如ク又敵ハ退
 却ニ當リ鐵道橋及給水機ヲ破壊セリ

0607

供覽

機密

發第十號

水

情況ノ通報

參謀總長

大正七年八月二十九日

井出

一、烏蘇利方面ニ於テハ我第十二師團長ハ八月二十七日
 步兵一中隊狙撃砲二門ニ兵一小隊ヲ興凱湖畔「スング
 ヲ」流出口附近ニ派遣シ該湖ニアル敵ノ退路ヲ遮断シ
 尚騎兵第十二聯隊（一中隊欠）及「カルムイコ」支隊ヲシテ
 烏蘇利驛方向ノ敵情ヲ搜索セシム該部隊ハ午後二時
 三十分烏蘇利鐵橋ヲ通過北進シ同夜「タング」河ノ線ニ
 達セリ此騎兵ハ烏蘇利驛附近ニ於テ敵汽船一ヲ鹵獲
 ス師團長ハ又別ニ大隊長ノ指揮スル步兵一中隊機関
 銃四ヲ烏蘇利驛台領ノ為派遣セリ
 烏蘇利河鐵橋ハ破壊セラレアラス烏蘇利驛附近烏蘇

7. 6. 39
官房受領

0608

利河兩岸地區 = ハ敵兵ナシ
 信スヘキ土人ノ言 = 依レハ敵ハ八月二十四日我攻撃
 前進ノ時期迄日本軍ノ戦線 = 在ルコトヲ知ラス我攻
 撃 = 遭ヒ非常 = 狼狽^狼レテ退却セリト
 二、北滿方面 = 於テハ「セミヨ」^ソ支隊ノ正面 = 二十六日中
 晝夜 = 巨リ緩ナル砲撃ヲ交換セル外ナル變化ナシ
 此方面 = 於テナル敵ノ主力ハ「ソクトイ」待避驛及「ホルシヤ」
 = 集中シツツアリ

0609

參一發第十二號

大正七年八月三十日

參謀總長

0610

參一發第十二號 第一項ノ第二行 八月二十日ト
アルハ、自于四日ノ誤リナリ
右訂正ス

正誤

兵第十二聯隊ノ主力ハ
「ルスギ」(烏蘇利驛

完全ナルモ其中間ニ於

テハ十箇ノ小橋梁爆破セラレアリ
第十二師團ハ第一梯團部隊ノ主力ヲ以テ二十九日
依然「シマコフカ」附近ニ位置シ前進ヲ準備シ逐次浦潮
ニ上陸スル第一梯團ノ部隊ヲ「スパスカヤ」ニ鐵道輸
送シ該地ニ下車シ前進セシム

0611

參一發第十二號

大正七年八月三十日

參謀總長

鳥蘇利及北滿兩方面ノ情況

一鳥蘇利方面ニ在リテハ我騎兵第十二聯隊ノ主力ハ

八月二十八日夕「グラスノヤールスキ」(鳥蘇利驛

北方約十三里)ニ達ス

「イマン」河以南ニハ敵ヲ見ス

「イマン」タンガ兩河ノ鐵橋ハ完全ナルモ其中間ニ於

テハ十箇ノ小橋梁爆破セラレアリ

第十二師團ハ第一梯團部隊ノ主力ヲ以テ二十九日

依然「シマコソカ」附近ニ位置シ前進ヲ準備シ逐次浦潮

ニ上陸スル第一梯團ノ部隊ヲ「スパスカヤ」ニ鐵道輸

送シ該地ニ下車シ前進セシム

二、北滿洲方面ニ在リテハ八月二十八日朝敵騎約百アバ
ガイド（滿洲里東南方約二里）ニ進入シ我步兵斥候ト
衝突シ札來諾爾守備隊タル我步兵一中隊、主力之
ニ赴援シ文戰約三十分ノ後敵ヲ東北方ニ擊退セリ
我損害ハ兵卒戰死一員傷一ニシテ敵ニ若干ノ損害
ヲ與ヘタルモノノ如シ
藤井支隊ハ該方面ノ敵ヲ掃蕩スル目的ヲ以テ大隊
長ノ指揮スル歩兵ニ中隊、機関銃ニヲ二十九日アバ
ガイドノ方向ニ派遣ス
八月二十七日ジヤラスン（マツエフスカヤ）附近ニ敵ノ斥
候、小部隊等潛入シ屢々鐵道電線ヲ破壊セリ因リ
テ藤井支隊ハ「セミヨノフ」支隊トノ中間ニ於ケル鐵
道電線ヲ保護ツルセテ「セミヨノフ」支隊ヲ支持スル

為二十八日早朝「タウリヤ」ニ至ル間ニ一部隊ヲ派遣
セリ
「セミヨ」ノ支隊ハ二十七日夜半ヨリ「ソクトイ」ニ於テ
敵ノ歩、砲兵ト戦闘ノ後之ヲ驅逐セリ

0613

參一發第十三號

大正七年八月三十日

參謀總長

供

(印)

烏蘇里及北滿方面ノ情況

一 烏蘇里方面ニ在リテハ我騎兵第士聯隊、一中隊ハ八月二十九日午前九時
「ウラスノヤールスキー」附近ニ於テ烏蘇里河上ヲ「イマン」方向ニ退却
中ナル敵ノ運送船五艘ヲ攻撃シ之ニ多大ノ損害ヲ與ヘタルモ交戦約
一時間ノ後敵ハ遂ニ北方ニ遁走セリ

此戦闘ニ於テ獲タル捕虜ノ言ニ依ルハ該船ハ興凱湖上ニ在リテ輸送ニ
任シタルモノニシテ「カーメンルイバロフ」ヨリ退却セル歩兵約五百砲二門及
機關銃八ヲ搭載セリト

此戦闘ニ於ケル我損害ハ戦死ニ、負傷二十リ

第十二師團ハ三十日其先頭ヲ以テ烏蘇里驛ニ向ヒ前進シ師團司令部
亦同日夕該地ニ到着シタル筈

7.9.2
官房受附

0614

ニ北滿方面ニ在リテハ敵ノ騎兵並裝甲自動車「シヤラス」西方地區ニ徘徊
シ鐵道電線ノ破壊ヲ企スルヲ以テ藤井支隊ハ之ヲ掃蕩ノ爲大隊長
ノ指揮スル歩兵ニ中隊砲二門ヲ十九日出發「ラダスタ」湖畔(滿洲
里西方約六里)ヲ經テ「ダウリヤ」方向ニ派遣セリ
「ホルツヤ」附近ノ敵ハ二十日「セミヨ」支隊ノ「ホルツヤ」進入ト共ニ同
地鐵橋ニ輕微ナル破壊ヲ行ヒ「アレキサンドロ」方向ニ退却セリ
「ホルツヤ」オロウヤ「シナヤ」間ニハ敵兵ナク貨車六百輛遺棄セラレアリト
藤井支隊ハ三十日騎兵聯隊ヲ「ダウリヤ」ニ派遣シ「アレキサンドロ」
「サウオ」
ト方向ヲ搜索セシムル筈

0615

機密

參一發第十四號

大正七年九月二日

參

通

報

水

謀總長

7.9.3

官房受領

軍務局

一、エックスロワック軍ヲ救援スル爲別紙ノ部隊ヲ第三師團長ノ隸下ニ屬シ之ヲ滿洲里方面ニ派遣セラル

二、臨時電信隊ハ九月十八日頃以降逐次滿洲里ニ到達ス

三、山砲兵第一聯隊第一大隊(一中隊欠)聯隊段列ニ小隊同聯隊輜重隊ノ彈藥一縱列並第十師團第十陸上輸卒隊ヲ第十二師團長ノ隸下ニ屬シ之ヲ沿海州ニ派遣セラル

0616

別紙

第三師團長隸下部隊

第三師團

山砲兵第一聯隊(第一大隊本部及二中隊並聯隊段列示隊欠)

山砲兵第一聯隊輜重隊(彈藥一縱列)

野戰重砲兵第四聯隊

野戰重砲兵第四聯隊輜重隊

野戰電信第六中隊

野戰電信第七中隊

第二無線電信隊

第三師團第一第二兵站輸送縱列

第三師團第一乃至第四輜重監視隊

野戰豫備病院第七班

0617

患者輸送部第七班
第一自動車隊
第二薪炭採集部

0618

極秘 參一發第十五號

大正七年九月三日
參謀總長

烏蘇里及北滿兩方面ノ情況

一、烏蘇里方面ニ在リ、我騎兵(騎兵第十二聯隊ノ主力、

步兵一中隊及カルムイコフ支隊)ハ八月三十日、イマンヲ占

領シ、同三十一日、同地發ビキンニ向ヒ前進シ、第十二師團

ハ、イマン鐵橋守備ノ爲、步兵一中隊、機關銃ニヲ派遣セル

外、主力ヲ以テ九月一日、依然烏蘇里附近ニ在リテ爾後

前進ヲ準備中ナリ

第一航空隊ハ二十九日、スパスカヤニ於テ飛行準備ヲ

終リ、一兩日中、烏蘇里ニ向ヒ躍進ノ豫定ナリ

退却セル敵、後尾ハ二十九日夜、ヒキンニ達セリ、其裝甲

列車ハ退却部隊、後尾ニ在リテ逐次鐵橋ノ破壊ニ任

シタリ

軍務局



第一課
第二課



7.9.4
官房受領

0619

烏蘇里驛附近ニテ新募ノ敵ハ退却ニ當リ投^{武器}シテ四散
 レタルカ如ク同驛以北ニ退却セシモノハ獨塊倭虜軍
 ノ外ハ黑龍州ニ於テ諦成セルモノ等其郷里ノ特ニ北
 方ニ在ルモノ及真ノ過激思想ヲ有スルモノナリレガ如シ
 捕虜ノ言ニ依レハ敵ハ「ハバロフスク」附近ニ於テ決戦ヲ企
 圖セルカ如ク同地方ニ於テハ目下陣地ノ構成中ナリ
 ト
 シマコフカ以南ノ鐵道ハ三十一日ヲ以テ開通シ烏蘇里驛
 迄ハ九月三日開通ノ豫定ナリ
 北滿方面ニ在リテハ我騎兵聯隊ハ八月三十日^日「ダウリヤ」ニ
 向ヒ派遣セラレタルカ續テ「ホルジヤ」ニ前進シ該方面ノ
 敵^情搜索ニ在スル筈
 「セミヨ」ノ支隊ノ先遣隊ハ二十九日「ハダブラク」(「ホルジヤ」)

西北方約九里ヲ占領シ。三十日オロウヤーンナヤ附近ニ達シ
其主力ハ二十九日來「ホルツヤ」ニ集結シ北進ノ準備中ナリ
又同支隊ノ別働隊ハ二十九日戦闘ノ後「オレン」河畔「チン
カントスカヤ」(「ホルツヤ」西方約八里)ヲ占領セリ
「オレン」河右岸地區ニハ敵挺進部隊ノ出沒スルヲ見ル
ノミ

0621

參一發

參一發第十六號

(五)

林

大正七年九月五日

參謀 恩 貞

參一發第十四號別紙
第三行山砲兵第一聯隊輜重隊ノ下(彈藥綴列)ハ
(彈藥一綴列欠)ノ誤ナリ
右訂正ス

局

鐵道隊及工兵隊極力之カ修理ヲ急キツツアリ
八月二十三日ヨリ二十五日ニ亘ルクラエフスキー附近ノ
戦闘ニ於ケル敵部隊號ノ判斷左ノ如シ
第一「ハバロフスク」聯隊
第一「ニコリスク」國際聯隊

退平ホ

7.9.6
官廳受領

7.9.6

參謀

參謀第十六號

通報

林

大正七年九月五日

參謀總長

7.9.6
官房受領

7.9.6

一、烏蘇里方面ニ在リテハ我騎兵隊ノ主力ハ九月一日ホ
 子ヤーロウオニ達シニ日ビキンニ向ヒ前進シ其騎兵一中
 隊ハ八月三十一日巳ニビキンニ達シ第十二師團ノ先遣
 歩兵中隊ハ九月一日イマンニ入レリ
 イマン以南ノ鐵道ハ一方露國鐵道從業員ノ助力ニ依リ
 鐵道隊及工兵隊極力之ヲ修理ヲ急キツツアリ
 八月二十三日ヨリ二十五日ニ亘ルクラエラスキー附近ノ
 戰鬥ニ於ケル敵部隊號ノ判斷左ノ如シ

第一「ハバロフスケ」聯隊
 第一「ニコリスク」國際聯隊

第一「ハバロフスク」遊撃隊

第一乃至第六大隊（第一大隊ハ「マシール」人、第三大隊ハ赤衛兵

其他ハ概シテ「ハバロフスク」「イマン」地方等ノ農民ヲ以テ編成シ第六大

隊ハ特ニ「イマン」革命大隊ト稱ス）

本戦闘ニ参加セシ獨逸人ノ數ハ不明ナルモ司令部幕
僚中ニ加ハリ又ハ衛生隊ニ配シ砲兵隊、機關銃隊ニ
位置シ或ハ歩兵ノ第二線ニ配在セシカ如シ

二、北滿方面ニ在リテハ藤井支隊ハ「ソッコウ」エフスキ（滿洲

軍東方約十三里）附近ニ少クモ約二千ノ敵アリトノ報ニ

接シ磯林大佐ノ指揮スル歩兵一大隊、野砲兵一中隊、

騎兵、工兵各一小隊及衛生班半部ヲ一日早朝滿洲軍

發同地方向ニ派遣ス又同支隊ヨリ鐵道、電線保護ノ

為派遣シタル部隊ハ八月三十一日「ホルジヤ」ニ到着セリ

三、セシヨロフ支隊ノ先頭ハ既ニオロウヤーンナヤニ到着シ
該地方面ノ敵ハストレチエンスク方向ニ潰走セリ
東進中ナリシ西方チエック軍及西部西伯利政府軍ノ各
一部ハ九月一日夜オロウヤーンナヤニ到着シ既ニ同地ニ
在ルセシヨロフ支隊ノ先頭ト連絡セリ彼等ノ言ニ依レ
ハ西方チエックハカガンヲ占領シベンガヨリオロウヤーンナヤ
ニ至ル全鐵道ハチエックノ手ニ歸セリト
西進中ノ東方チエック軍ノ先頭部隊ハ八月三十一日ホルジ
ヤニ到着セリ

0625

極秘

參 發第十七號

大正七年九月五日

參 謀 總 長

烏 蘇 里 方 面 ノ 情 況

一、九月二日我騎兵一中隊ハ「ロレンセンガルトワカ」(「ビキン」北方約十里ニシテ「ハバロフスク」ノ南方約四十里ナリ)ニ又騎兵隊ノ主力ハ同日「ビキン」ニ達セリ

此日第十二師團長ハ新ニ騎兵ノ支援トシテ歩兵一中隊及機關銃一小隊ヲ附屬セリ

二、我第十二師團ノ主力ハ其先頭部隊ヲ以テ九月三日烏蘇里ヲ出發北進セリ

師團司令部ハ三日依然烏蘇里ニ在リ

三〇九

大正七年九月

六日

午後七時五十分

品局發



受信者大臣

發信者

藤吉少佐



八番電報

電報譯

第三師團輸送開始九月八日ヨリ釜山
ニ上陸ノ豫定

軍務局

軍令



海軍

0627

極秘

參一發第十八號

大正七年九月七日

參謀總長



通報



烏蘇里方面ノ情况

一、我先遣騎兵中隊ハ九月三日「ウヤーゼムスカトヤ」ニ連シ四日朝「カルマイ」ヨリ支隊ト共ニ鐵道ニ依リ「ホル」驛ニ向ヒ前進シ爾後引續キ鐵道ニ依リ九月四日夕「ハゴフスク」附近ニ前進シ該地ニ進入セリ

我騎兵隊ノ主力ハ九月三日「バイツ」ハニ連シ四日「ウヤーゼムスカトヤ」ニ向ヒ晝夜兼行急進シ同地ヨリ鐵道ニ依リ「ハゴフスク」ニ向ヒ五日午前五時三十分確實ニ同地ヲ占領セリ

支援歩兵ノ中一、中隊ハ騎兵隊主力ニ近ク跟随シ其殘餘ハ四日「ピキン」ニ宿營シ五日朝鐵道ニ依リ北進ス

二、師團司令部ハ九月五日「ノマン」ニ在リ

0628

三、ハバロフスク附近ノ敵ノ大部ハ「ヴラゴエチニスタ」方向ニ退却センモ
ノノ如シ

北滿方面ノ情況

一、歩兵第十四旅團長九月六日發報告ノ要旨左ノ如シ

該旅團ヨリ黒河方向ニ派遣セシ騎兵將校一隊掘井中尉
ノ報告ニ依レハ對岸「ヴラゴエチニスタ」ニハ目下過激派軍約三、
四千飛行機四アリ「マシヤール」人約五百ハ近ク黒河ニ來ルヘ
シト傳ヘラル、黒河ニハ獨塊俘虜四十アリト

其十隊補給量軍糧糧至(一)ノ極盛リ聯三隊回復

一區兵營半 候十隊

トノ子ノ糧至(一)ニ曾補給量軍糧ニ回復

(加藤)

供覧

大正七年 九月 六

日 午前 十時 十分 肥前 局 發

日 午後 一時 三十分 者内無線局 著

大谷

(印)

發信者

大谷軍司令官

(印)

受信者

參謀總長

電報譯

(印)

九月六日前十時發

浦參第一八号

騎兵聯隊ノ先遣中隊及「カルムイコ」支隊ハ
四日夕「ハバロフスク」ニ達シ微弱ナル敵ヲ擊退

軍務局

五日前十時半確定ニ「ハバロフスク」ヲ在領

(印)

聯隊ノ主力ヲ同日午後「ハバロフスク」ニ進入

ニ繁 糸細後ヲ

海軍

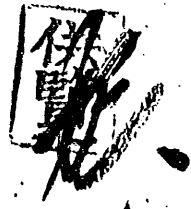
0630

極秘

參一發第十九號

大正七年九月九日

參謀總長



烏蘇里方面ノ情況

「クエフスキ」附近戰鬪於此鹵獲品中主要ナルモノ詳細左ノ如シ

十五珊加農 一門

十五珊榴彈砲 二門

九珊野砲 一門

七珊野砲 一門

機關銃 七銃
(内ハ「クエフスキ」軍ノ要求ヨリ讓與セリ)

河川用汽船 二隻

右外小銃彈藥車、機關銃實包、小銃實包、手榴彈、火藥

通信器材等十

我騎兵隊ハ九月五日以來「ハバロフスク」ニ在リテ隊伍ノ整頓中ニテ同市

7. 9. 10
官房受領

0631

民ハ我ニ好意ヲ表シアリ

師團長ハ九月八日「イマン」ヲ發シ鐵路「ハバロフスク」ニ向ヒ師團ノ主力ハ
目下逐次「ハバロフスク」ニ集中中ナリ

三、我騎兵隊ハ既ニ「ハバロフスク」ニ到着セル歩兵一大隊ト共ニ九月七日「ハバ
ロフスク」ニ於ケル敵海軍ノ根據地ヲ包圍シ砲艦十七隻(内四隻ハ武
裝シアリ)及船四隻ヲ押收シ又同地無線電信局ヲ占領セリ右ノ外各種
火砲百二十餘門、小銃實包庫一棟、砲彈庫七棟、火藥庫七棟、馬具庫
一棟、馬匹七十頭、自動車七、器械ニ及鐵條網材料多數ヲ獲タリ

四、浦潮派遺軍ニ於テハ即時第三項物件ノ整理ニ著手シ艦船ハ之ヲ九月八
浦潮ヲ發シテ「ハバロフスク」ニ向ヒタル我海軍陸戰隊ニ引渡シ黑龍江掃河
ノ用ニ供ス

五、在「ニコラエラスク」我第三艦隊司令長官ハ浦潮派遺軍司令官ノ協議ニ依リ
七日午前十時「ニコラエラスク」發第五驅逐隊ノ三隻ヲ溯江セシム

秘

極秘

參一發第二十號

大正七年九月十一日

參謀總長

北滿方面ノ情況

北滿方面ノ情況

一、藤井中將ハ九月三日「カルイムスカヤ」方向ノ情況ヲ偵知スル爲

其隸下騎兵隊ヲ「オロウヤンナヤ」ニ派遣シ此部隊ハ同日夕「オロ

ウヤンナヤ」ニ到着セリ又藤井中將ハ更ニ此部隊ヲ九月五日夜出發

鐵道ニ依リ「カルイムスカヤ」ニ前進セシム

「ソコツウエフスキー」附近ニ敵兵來襲ストノ報ニヨリ滿洲里

藤井支隊ヨリ該地ニ派遣セラレタル磯林大佐ノ指揮スル部隊ハ

九月三日目的地ニ到達セリ然ルニ敵騎約二千ハ七月下旬以來該地

ヲ根據トシ活動シアリシニ拘ラス滿洲里方面ニ我軍來著ノ報傳ル

ハ八月下旬頃既ニ「アレキサンドロフスキー」方向ニ撤退シ當時附近ノ

人民ハ堵ニ安シテ我ヲ歡迎スルノ情況ナリシヲ以テ該部隊ハ滿洲

軍務局

里ニ歸還シ引續キ「チタ」ニ向ヒ前進ヲ起シ鐵道ニ依リ其先頭
ハ九月八日午後「チタ」ニ到着ス而シテ「チタ」市民ハ衷心我軍ヲ歡
迎シテ好意ヲ表ス

三「セミヨー」ヲ支隊ハ藤井中將ノ區處ニ依リ九月五日頃以來其主力
ヲ「オノン」河右岸ヨリ「ボルジヤ」ニ至ル間ニ集結シテ爾後ノ西進
ヲ準備シ別ニ騎兵一聯隊ヲ「アレキサンドロ、ザウオード」附近ニ騎
兵一中隊ヲ「チタ」方向ニ派遣セリ

0634